

# 主観的健康感から見たコロナ危機

一橋大学

HIAS EBPM 研究センター/経済研究所

小塩 隆士

## ご報告する内容

### 「コロナ禍の生活影響と行動変容に関する調査」

(ESRI と共同実施、実査=サーベイリサーチセンター)

のデータを用いた、3つの実証研究の紹介

1. どの感染状況を自分の問題として捉えるか
2. 社会的孤立はコロナ禍にとってどこまで問題か
3. 私たちはどこまで危機に「慣れて」きたか

注目点：《主観的健康感》（self-rated health）

●質問「現在、あなたご自身の健康状態をどのように感じていますか。いずれか1つだけ選んでください。」

1. よい
2. まあよい
3. ふつう
4. あまりよくない
5. よくない

←一般的な健康状態に関する信頼性の高い代理指標

## 研究 1  どこの感染状況を自分の問題として捉えるか

Q. 主観的健康感は新規感染者数の増加で悪化するだろうが、どの地域の状況に最も敏感に反応するか

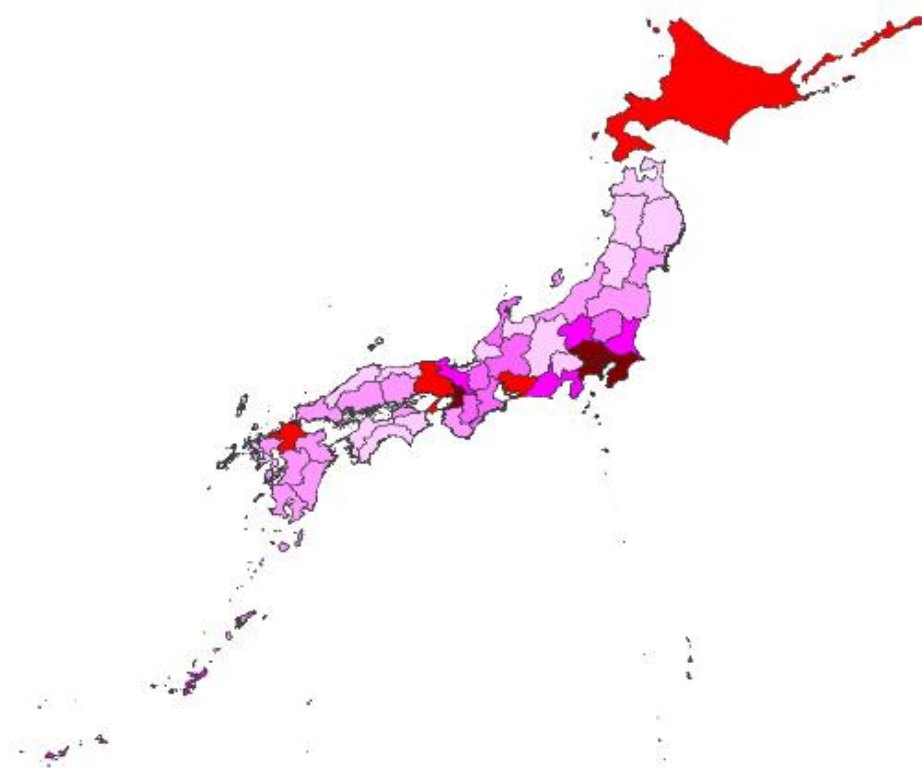
自分が住んでいる都道府県？

隣接している都道府県？

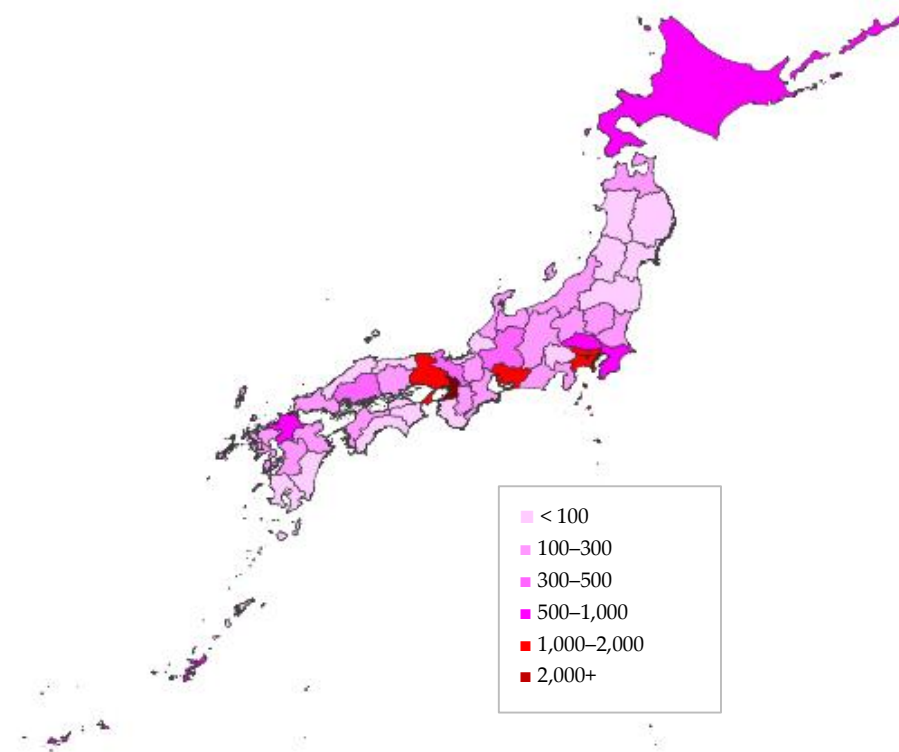
地域・個人レベルの属性の影響を制御して調べてみる  
(←異なる時点の調査が必要)

# 新規感染者数の分布

2021年2月



2021年10月

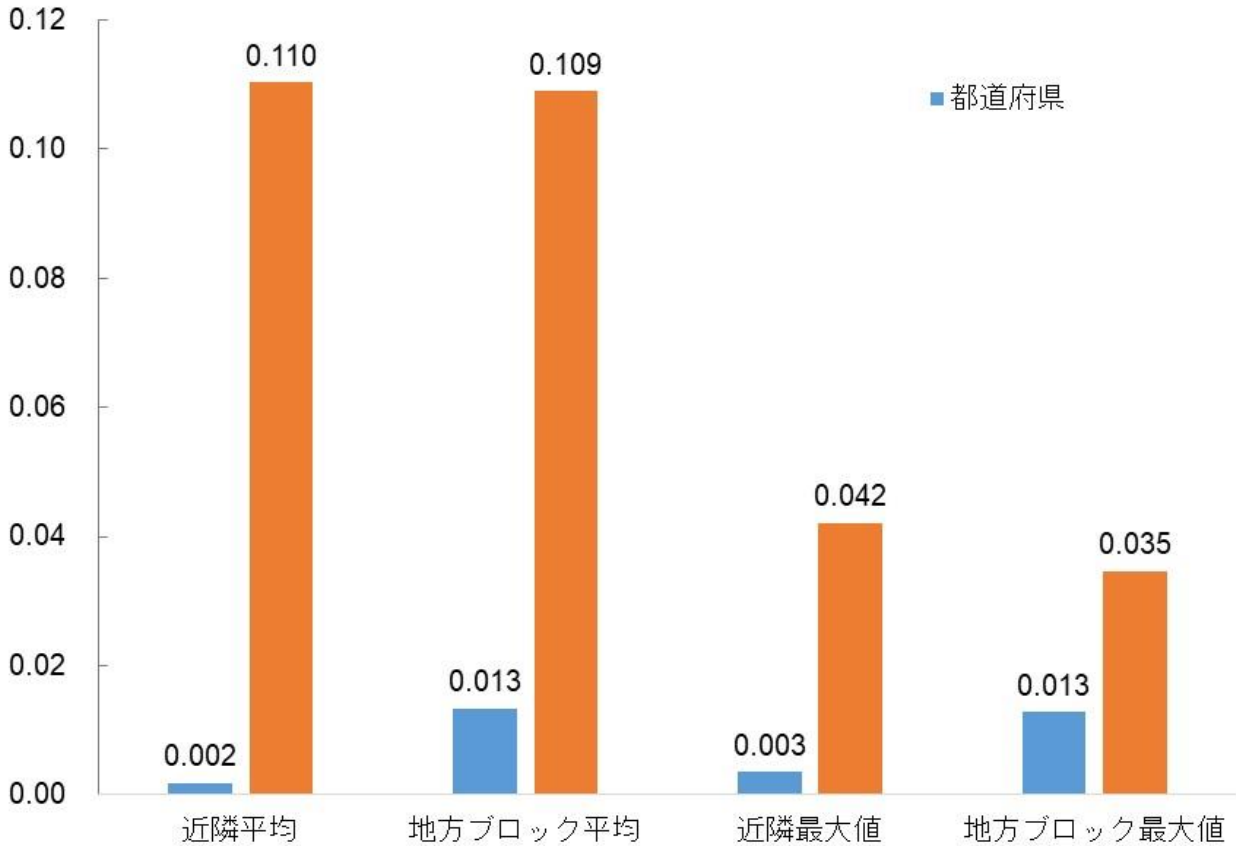


## 5つの候補

- 都道府県
- 近隣する都道府県における平均
- 地方ブロック（例：関東、近畿）における平均
- 近隣する都道府県における最大値
- 地方ブロックにおける最大値

→ 都道府県の感染者数と、それ以外の地域レベルのうち1つの感染者数を説明変数にして、主観的健康感を説明する回帰式を推計し、結果を比較

# 結果の例：新規感染者数が1000人増加したときに 主観的健康感（1-5）は何ポイント悪化するか



## ●結 果

人々の主観的健康感に影響する新規感染者数は、自分が住んでいる都道府県のものではなく、**近隣する都道府県**や**地方ブロック**のもの

## ●政策的含意

感染対策は都道府県単独で行うのではなく、**都道府県間の連携**が重要



## 研究2 社会的孤立はコロナ禍にとってどこまで問題か

Q. 感染拡大前に社会的に孤立している・していないで、緊急事態宣言の発令に対する主観的健康感の反応はどこまで違ってくるか

感染拡大に対する「強靭さ」の個人差を調べる

地域レベル、個人レベルの属性の影響を制御したうえで調べてみる（←異なる時点の調査が必要）

## 社会的孤立をどう捉えるか

### 2つの注目点

- 他人との付き合い (interaction with others)
- 社会的サポート (social support)

## ●他人との付き合い

あなたは友人等と平均してどのくらいの頻度で交流（実際に会ったり、連絡を取り合ったりすること）をしていますか。

1. ほぼ毎日、
2. 週に3, 4回、
3. 週に1回、
4. 月に2, 3回、
5. 月に1回
6. 月に1回未満
7. 該当者がいない

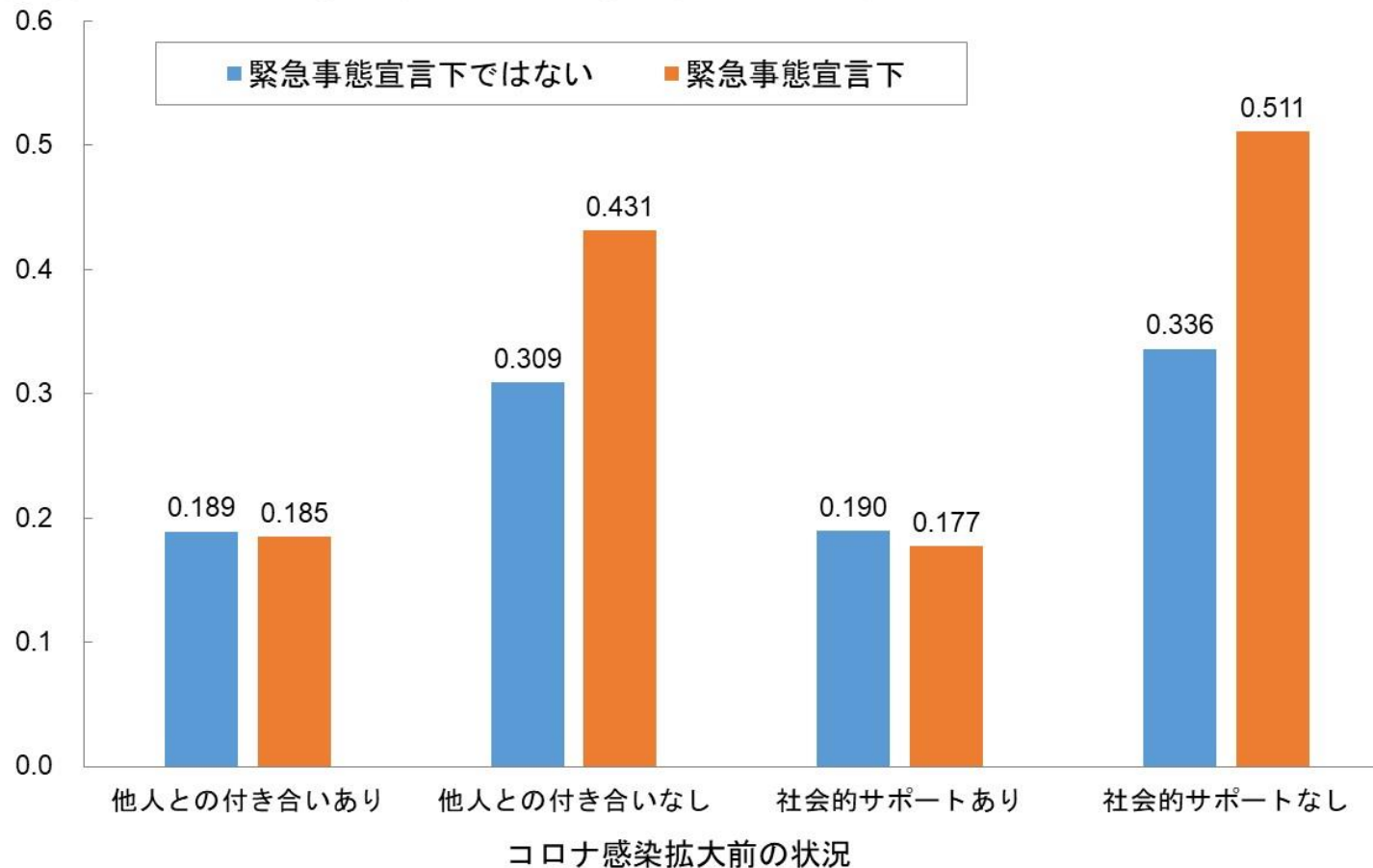
## ●社会的サポート

あなたが困ったとき、頼りになるご家族や友人はいますか。

1. 同居の家族・親族
2. 同居以外の家族・親族
3. 友人・知人
4. 職場の同僚・上司
5. 恋人
6. 学校の先生（恩師）
7. 全くいない
8. その他

# コロナ感染拡大前の社会的孤立と主観的健康感

健康状態が「よくない」「あまりよくない」と答えた人の比率（%）



## ●結 果

社会的に孤立していた人は、コロナ感染拡大の影響をより強く受ける

## ●政策的含意

社会的孤立の回避・解消策の必要性

### 研究3 私たちは危機にどこまで「慣れて」きたか

Q. 緊急事態宣言の終了後、主観的健康感はどのように変化してきたか (分析中)

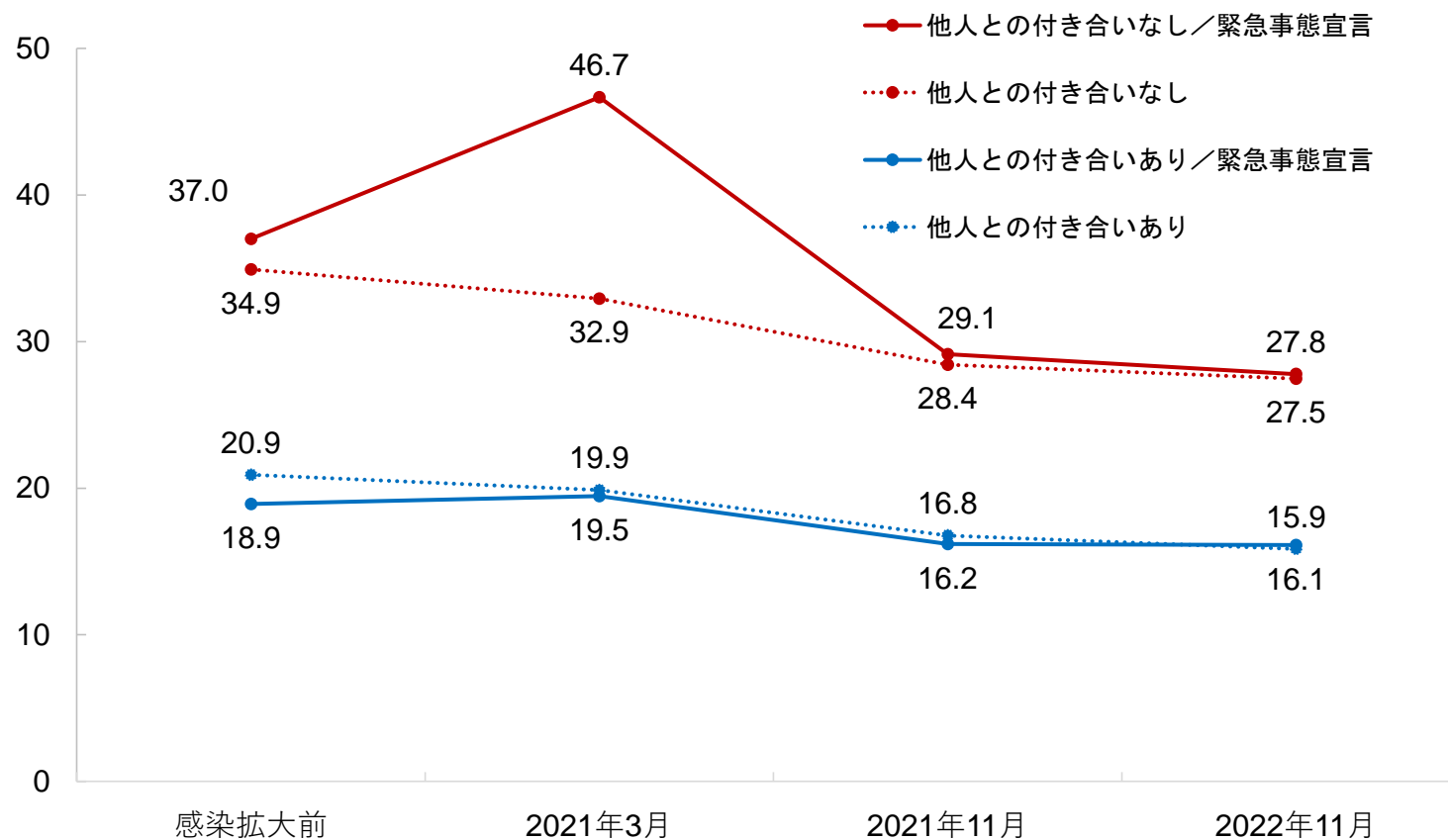
日々報道される新規感染者数・重症者数・死者数に、私たちはかつてほど反応しなくなっている？ それとも、より深刻な気持ちになっている？

## 4 時点にわたる調査

1. 2019年1－2月、20年2月：感染拡大前
2. 2021年3月：緊急事態宣言発令／終了直後
3. 2021年11月
4. 2022年11月

# 主観的健康感は横ばいなし若干の改善傾向

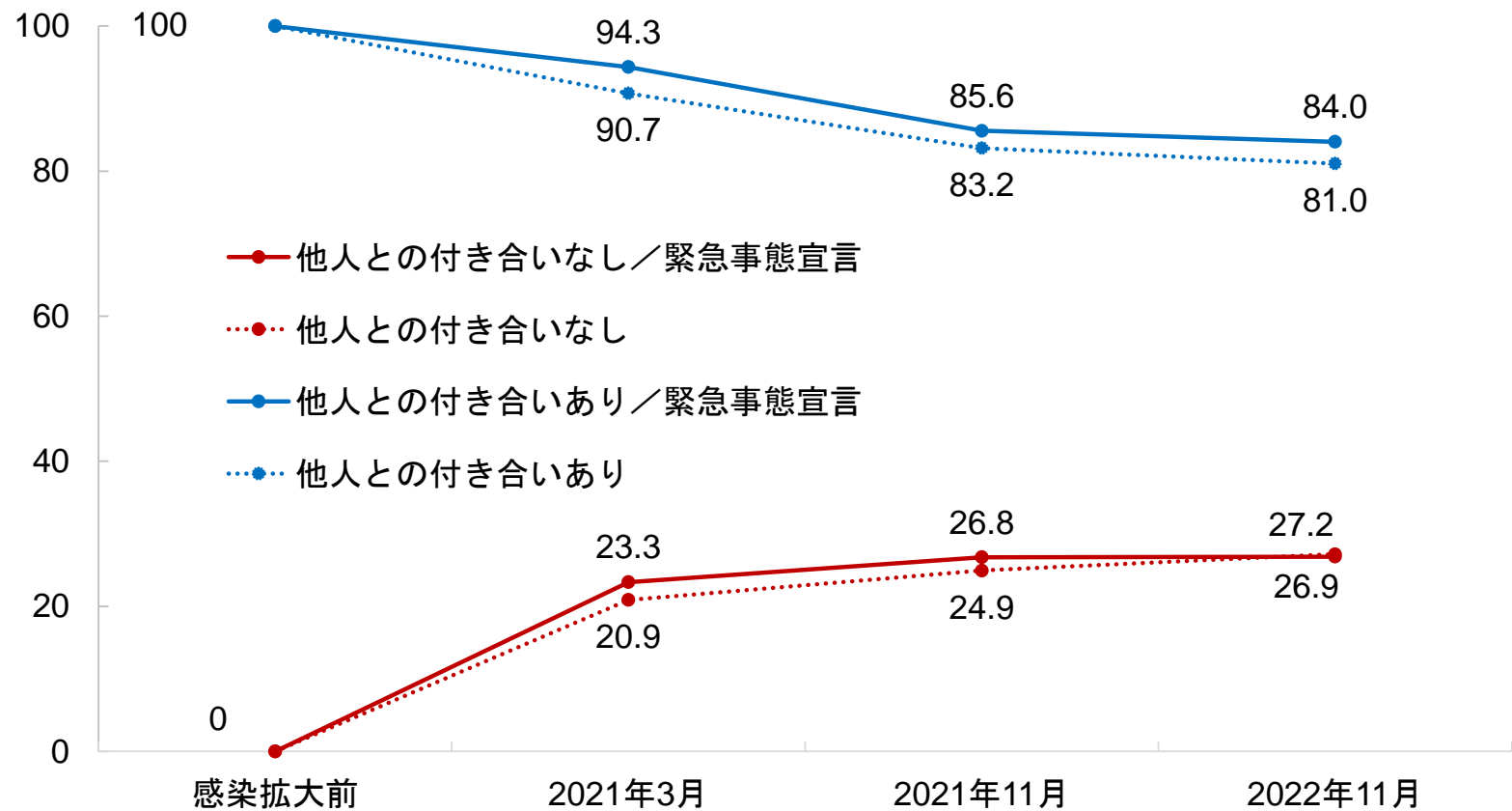
健康状態が「よくない」「あまりよくない」と答えた人の比率（％）





# 他人との付き合い方に変化も

他人との付き合いが少しでもあると答えた人の比率（％）



## まとめ

- 大規模パネル・データの活用で、コロナ禍下における私たちの**ウェルビーイング**の変化やその背後にある要因を解明しやすくなる（個人属性の影響の制御）
- 主観的な回答に依存するという限界はあるが、**政策的な含意**を直感的に読み取ることができる

→マクロ経済統計による政策分析の補完

# ご清聴ありがとうございました

---

本報告の内容は以下の論文に依拠しています：

研究1: Takashi Oshio, Hiromi Kimura, Toshimi Nishizaki, and Susumu Kuwahara, "Pre-pandemic social isolation as a predictor of the adverse impact of the pandemic on self-rated health: A longitudinal COVID-19 study in Japan," *Preventive Medicine*, 2022, 164, 107329.

研究2: Takashi Oshio, Hiromi Kimura, Toshimi Nishizaki, and Susumu Kuwahara, "At which area level does COVID-19 infection matter most for an individual's self-rated health? A multilevel fixed-effects model analysis in Japan," *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 2022, 19(15), 8918.